

医師・薬剤師それぞれの立場から講演

在宅医療における医薬連携研修会

大阪府医師会は1月13日午後、大阪府在宅医療総合支援事業の一環として、「在宅医療における医薬連携研修会」を開催。医師・薬剤師など多職種が、会場とウェブで約300人受講した。



中尾副会長

辻穀嗣氏(府医介護)の第8次医療計画で、高齢者福祉委員会委員が重要視されていること、尾止俊副会長が開会あいさつ。4月から始まる緊急に連携し、在宅医療の進展に尽力したいと力を込めた。



南條氏

「はじめに、医師の立場から、南條浩輝氏(かがやきクリニック院長)が小児在宅を中心に講演した。



羽尻氏

「次に、各職域が専門性を発揮して連携するためには、明確な役割分担が不可欠とし、求める薬剤師像に言及した。患者には処方全般をフォローする「かかりつけ薬剤師」、在宅医療には処方提案が期待できる「薬の専門家パートナー」と述べ、地域医療の発展に貢献したいと述べた。



ウェブとの併用で開催

大阪マラソン2024 盛大に 府医・大阪臨床整形外科医会が医師派遣



海外招待を含むエリートランナーから順次、大阪府庁前をスタート



男子では平林清澄選手(國學院大学)が学生新記録で優勝

事例検討会で家族介護者への理解を深める

令和5年度北区認知症高齢者支援ネットワーク連絡会

令和5年度北区認知症高齢者支援ネットワーク連絡会(にこりんく)は12月14日午後、北区障がい者・高齢者虐待防止連絡会議との合同で専門職向け事例検討会を開催。当日は専門職ら102人が参加した。



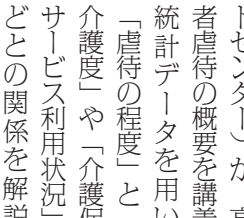
本出北区医師会長

冒頭、本出肇・北区医師会長があいさつ。コロナ禍におけるストレスなどを背景に、要介護者に対する無視や意地悪の増加を憂慮。検討会を通して、より良い方向性を探りたいと期待を寄せた。



沖田氏

「認知症高齢者の虐待防止・養護者支援について」と題し、家族介護者の心情や、虐待を防ぐために配慮すべきことについて理解を深めた。



はじめに、沖田裕子氏(NPO法人認知症の人とみんなのサポートセンター)が、高齢者虐待の概要を講義。統計データを用い、「虐待の程度」と「要介護度」や「介護保険サービス利用状況」などの関係を解説し、家族の気持ちを理解し、医師会副会長



グループワークで課題を共有

た。支援者は、患者と家族がどのように家族関係を築いたのかを知ることが大切だとアドバイス。あわせて、介助した支援者の心理的負担を軽減するための事例を基に、「患者の状態が悪化した中で介護家族に寄り添うために必要なこと」をグループで共有した。

「認知症高齢者の虐待防止・養護者支援について」と題し、家族介護者の心情や、虐待を防ぐために配慮すべきことについて理解を深めた。



前川理事が副本部長として出席



大阪臨床整形外科医会からも多くの医師が協力

第12回を迎えた「大阪マラソン2024」は2月25日に開催され、当日は朝から雨が降り最低気温4.2度とランナーには条件の悪いコンディション。約3万4千人が大阪府庁前をスタートし、大阪公園のフィニッシュ地点までの42.195キロを目標とした。

「認知症高齢者の虐待防止・養護者支援について」と題し、家族介護者の心情や、虐待を防ぐために配慮すべきことについて理解を深めた。